県内業界から見る【インバウンド需要の現状】について

石川県中小企業団体中央会

＜調査対象＞

◎調査期間：平成２８年１０月下旬～平成２８年１１月上旬
◎調査対象：当会情報連絡員（業界組合）５８団体

（回答　４６団体　・製 造 業：３１団体中２３団体
　　　　　　　　　・非製造業：２７団体中２３団体）

＜結果のポイント＞

インバウンド需要の現状について

増え続けている外国人観光客は新幹線開業効果も加わり、昨年、県内経済に一定の好影響をもたらしました。しかし、円高の進行や今年４月の中国の関税引き上げ、開業効果の縮小などのマイナス要因が見られる中、インバウンド需要の現状を把握するため、業界組合に聞いてみたところ次のとおりであった。

○全業種では、「インバウンド関連の売上はない」が５０．０%と最も多く、インバウンド関連の売上は半数の業界では関連が薄いようである。また、「変わらない」２８．３%、「増加した」１７．４%と続き、「減少した」は４．３%に留まったことから、インバウンド関連需要は昨年と同等かそれ以上に見られるようである。

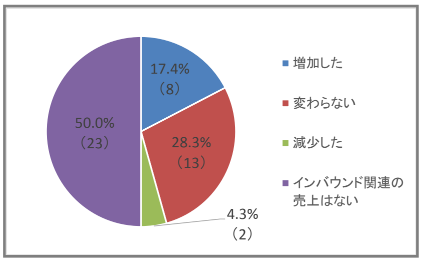
○製造業でも、「インバウンド関連の売上はない」が最も多く（６５．２%）、「変わらない」（２６．１%）、「増加した」と「減少した」は共に４．３%であった。インバウンド関連の売上はない業種が多く、「変わらない」業種も多かったことから、インバウンド需要変動の影響はあまり受けていないようである。「変わらない」との回答は、菓子製造業、調味料製造業、印刷業、繊維工業、金箔製造業で見られ、「増加した」は漆器製造業、「減少した」は陶磁器製造業であった。また、インバウンド関連の売上はない業種が多いことから、需要獲得のための取組みを行っている業界も少なく、「行っている」との回答は、漆器製造業と陶磁器製造業、印刷業であった。

○非製造業でも、「インバウンド関連の売上はない」が最も多かったものの、その割合は３４．８%と小さくなり、「増加した」と「変わらない」が共に３０．４%、「減少した」は４．３%であった。「増加した」との回答は、旅館ホテル業と土産物小売業、商店街（近江町、竪町）で見られた。非製造業はインバウンドに関係する業界が多いため、需要獲得のための取組みを行っている業界も多く、それは、旅館ホテル業、土産物小売業、商店街（近江町、片町、竪町）、青果物小売業であった。また、取組み内容は“店内の外国語表示”と“従業員への外国語教育”が多かった。

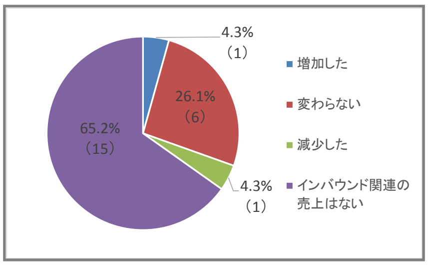
＊北陸新幹線の開業効果には一服感が出てきたとの声が聞かれる中、増え続けている訪日客が観光関連産業を下支えしている模様である。

①昨年と比べてインバウンド関連の売上は直接・間接を問わず増加しましたか？

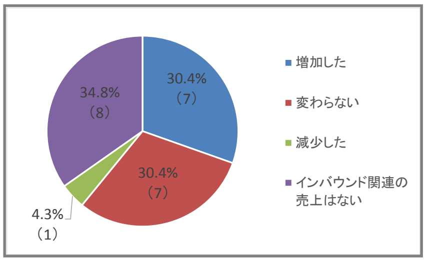
全業種



製造業



非製造業



②　①の要因

製造業

増加の要因

観光客の増加	1

減少の要因

円高の進行	1
中国関税の引上げ	1

非製造業

増加の要因

観光客の増加	5
新幹線開業効果の継続	2
その他	1

減少の要因

観光客の減少	1

③インバンド需要獲得のための取組みを行っているか？

製造業

行っている	3
行っていない	17

非製造業

行っている	9
行っていない	14

④　③の取組みの内容

製造業

免税店の許認可取得	2
店内の外国語表示	1
海外クレジット会社への加盟	1
従業員への外国語教育	1

非製造業

店内の外国語表示	5
従業員への外国語教育	4
設備・店舗等の新設や更新	3
Wi－Fi整備	2
SNSでの情報発信	1
共同免税カウンターの設置	1
洋室化	1
海外への自社商品の情報発信	1